第１回　DRV（ドイツボート協会）国際ジュニアレガッタ

大門千紗（日田林工高校）の挑戦！！

平成 27 年 5 月 11 日
強化委員会・タレント発掘委員会

国内初のメダルポテンシャルアスリート　大門千紗（日田林工高校）の欧州初遠征となった第１回 DRV 国際ジュニアレガッタ　5 月 9 日（土）に予選・決勝をおこないジュニア A 女子シングルスカルに出場し総合 11 位と健闘。

また、5 月 10 日（日）に前日の総合成績をもってタイムトライアルレースが行われ、前日のＦｉｎａｌＡで 2 位､6 位の選手他強豪とのタイムトライアルにて 2 位に入り多くの経験そして自信を得た大会となりました。

若干 16 歳、未知なる領域に向け更なる挑戦を続けます！！

（5 月 10 日のタイムトライアルレース終了後　笑顔を見せる大門選手）

＜現地レポート＞

5 月 7 日：午前中スピード確認も含め水上トレーニング。
午後はドイツに来て初めてのＯＦＦ。
レース 2 日後に控え心身のリフレッシュを促す。

5 月 8 日：前日の休息にて疲労度も和らぎ午前中はスタート練習などスピードを確認。
レースを翌日に控えいよいよ選手団が集結しコースも賑わっております。
昼食もコースで摂ることができレースに向けて準備も着々と進んでおります。

（ポーランド、ベルギー、チュニジアなども参加）

（選手団も続々と集結）

夕方も 4ｋｍ程度レースに向け調整を進める。
なお、トレーニングセンターがレース中は使用できないことから本日よりホテルに移動しレースを迎えます。

（5 月 8 日　夕方モーション　トレーニングに向かう大門選手）

5 月 9 日：本大会でのシングルスカルの軽量級選手の定義が国内とは異なり女子選手で 57.5kg。レース前日の夕方で体重にて出場種目を決定。
大門選手はジュニア A　女子シングルスカルで出場。

レースは予選 6 組にわかれ各組 1 位が午後からの Final A へ、2 位が Final B、3 位が Final C となる。
ジュニアのオープン種目（体重制限がない種目）であるがより高い経験値を経るためには上位で Final に進む必要があり、周囲を見渡しても大門選手より大柄な選手が大半で不安の残る中スタート地点へ立った。

（予選レース）
スタートから積極的に飛ばしたが Laura Kampman 選手(※最終的に優勝した選手)にスタートで 1 艇身リードを許す。そんな中でも大門選手は懸命に 1 本 1 本ゴールに近づけていくが、午後からの Final レースを視野に入れたレース運びで相手に余裕がある中で 2 位でゴール。午後からの Final B に進出となった。

レース後は栄養補給をおこない準備を進める。
しかし、午後からは雲行きが一転しスコールがコースの上部を覆い、大会側の冷静な判断により 30 分程度のレース中断がアナウンス。
大会を通じこまめにレーススケジュールに Brake の時間を確保していること、そして、欧州の大会はこういう天候を読む力、そして、その時の判断、配慮が的確であることが大会を通したクオリティに繋がっていると感じた。

（午後にはスコールが・・・）

（スコールをしのぐ大門選手）

レース中断もあったが大門選手がこの日 2 本目となるレースへ

（Final　B へ向かう大門選手）

（Final　B レース内容）
予選同様前半から積極的にレースにのぞむがドイツ 3 選手に選考を許す展開。
中盤スイス選手と競り合うが 5 位でフィニッシュ。総合 11 位が確定。

レース終了後の大門選手のコメント
『艇を運ぶ強さ、スピードが明らかにトップ選手と違う。高いスピードを出し続けていく力を身に着けていく必要がある。基本的なことから艇を強く速く運んでいきたい。』

と既に次のレース、これからの課題を示していた。

5 月 10 日　早朝 5 時前にホテルを出発。
早朝ではあるがインターナショナルレースの朝は緊張感みなぎる何とも言えない空間となっていた。
前日の総合順位より本日予選 3 組でのタイムレースが予定されている。
前日のレースだけでなくジュニア世代でも多くの 2000m レースを漕がせていただける配慮に感銘を受けた。
大門選手は総合 11 位であるがこの日の最上位が集う Heat 1 にエントリーされていた。前日　FinalA　2 位のベルギー選手や Final B で競り負けたスイスの選手などとの組み合わせとなった。

（Heat 1 レース内容）
予想通りスタートから Final A　2 位になったベルギー選手、前日 Final B で接戦を繰り広げたスイス選手が先行。しかし、1 本 1 本冷静に艇を運び 1000m でスイスの選手を先行。しかし、そこからまたスイス選手が大門選手に何度も何度も迫るレース内容。トップのベルギーには及びませんでしたが国内では味わえないレース運びで 2 位でフィニッシュ。

（接戦を繰り広げたスイス選手と親交を深めた大門選手）

（多くのトレーラー）

（メインポールを囲む各国の国旗）

重田コーチより
ローイングに関しては、やはり世界の強豪選手との違いを身を以て感じております。ジュニアトップ選手は、艇を１本で運ぶ強さは、日本では見ることないスピードを出し続けます。
W-up 中見ると、「対等に戦えそうだ」と思いがちですが、レースペースになると違います。それが全てではありませんが、 A 決勝に行く選手の全ては、テックニックも長けていること。
トップに立つ選手のすべては、レース前後の取り組む姿勢やそこに挑む行動。
一人で艇を運ぶ姿（自立している）など。
すべてに「きどり」があります。日本選手にも必要なことかもしれません。

初めての欧州遠征。

5 月 3 日に到着してからも多くの成功、失敗を繰り返しこのゴール地点までたどり着きました。大門選手が感じたすべてが今後の競技生活に繋がると思っております。
未知なる領域への挑戦に引き続き取り組んでまいります。

引き続き応援のほどよろしくお願いいたします。